

マンデラの名もなき看守

2008(平成20)年5月12日鑑賞(GAGA 試写室)

★★★★



監督＝ビレ・アウグスト／出演＝ジョセフ・ファインズ／デニス・ヘイスバート／ダイアン・クルーガー／シロー・ヘンダーソン／タイロン・キオー／ミーガン・スミス／ジュシカ・マニュエル／フェイス・ンドウクワナ／パトリック・ライスター／クライブ・フォックス／ジェニファー・スタイン／アンドレ・ジェイコブス／ダニー・キオー（ギャガ・コミュニケーションズ配給／2007年フランス、ドイツ、ベルギー、イタリア、南アフリカ合作映画／117分）

第3章

傑作・佳作がいっぱい！

……アパルトヘイトと戦い、獄中27年！ 南アフリカ共和国の初代大統領となったネルソン・マンデラをあなたは知ってる……？ 少し教科書的だが、アフリカものの1つとしてしっかりお勉強を！ とはいっても、主人公は名もなき看守。そしてテーマは自己変革！ 「傍観者にはなりたくない。歴史の1コマになりたい」との言葉をしっかり胸に！

ビレ・アウグスト監督の名前も覚えなければ

スウェーデンの女性監督スサンネ・ピアの名前とその作品のすばらしさは、最近観た『アフター・ウェディング』(06年)と『ある愛の風景』(04年)でバッチリ覚えたが、『マンデラの名もなき看守』もデンマークの有名なビレ・アウグスト監督の作品とのこと。つまり、私は観ていないが、1948年生まれの彼は、『ペレ』(87年)と『愛の風景』(92年)でカンヌ国際映画祭パルムドール賞を2度も受賞した著名監督とのことだ。

そんな大監督が南アフリカ共和国の、私も名前だけは聞いたことのあるネルソン・マンデラ(デニス・ヘイスバート)の伝記(?)を、「名もなき看守」ジェームズ・グレゴリー(ジョセフ・ファインズ)に託して映画化したのがコレ。1918年生まれのネルソン・マンデラは、1994年から99年まで南アフリカ共和国の初代大統領をつとめた後政界を引退したが、90歳でなお健在。そんな彼の「伝記」としてこの映画は大変貴重だが、その出来は……？

「アフリカもの」がまた1つ

近時『ルワンダの涙』(05年)や『ラストキング・オブ・スコットランド』(06年)など「アフリカもの」の名作が目立っている。島国ニッポン人としては、それによって広くアフリカまで目が開かれることに……。

去る2008年5月8日アフリカ大陸の北西にあるイスラエルが建国60周年を迎えた。私が観たテレビ番組によると、男は3年、女は2年という世界に例のない徴兵制度によって国の団結力を高めてきたイスラエルでも、最近徴兵拒否が目立っており、そんなところにもみる国の団結力のほころびが心配されているらしい。南アフリカは、そんなイスラエルが建国されたのと同じ1948年に、アパルトヘイトという人種隔離政策が法制化されたことで有名。

これは、肌の色で人間を白人、カラーズ、アジア人、黒人の4種類に分類するものだが、それが後に国連から「人類に対する犯罪」とまで言われたのは当然。この映画は、そんな南アフリカのアパルトヘイト政策に反対し、ロベン島の刑務所に18年間、その後のポルスモア刑務所を合わせて合計27年間も刑務所暮らしを余儀なくされながら、1990年遂に釈放され、1994年には初代大統領に選出・就任したというネルソン・マンデラを描く伝記。映画のつくり方云々は別として、そんな事実だけでも「アフリカもの」の貴重な素材として学ばなければ……。

『グリーンマイル』系？ それとも『善き人のためのソナタ』系？

4月30日に観た、新婚旅行用の一週間の休暇のために、死刑囚の「支え役」を志願する刑務官の心の葛藤と死刑囚との交流をテーマとした『休暇』(07年)は心打たれる邦画の傑作だった。これに対して、看守と死刑囚との心の交流をテーマとしたハリウッドの傑作が『グリーンマイル』(99年)。他方、ベルリンの壁の崩壊という冷戦体制崩壊の中、「監視する者」と「監視される者」をテーマとしたドイツ映画の名作が『善き人のためのソナタ』(06年)。

『マンデラの名もなき看守』は、死刑囚ではないが、政治犯として終身刑を言い渡された囚人マンデラと看守ジェームズとの心の交流が1つのテーマ。もっとも、ジェームズはもともと検閲部の責任者であるうえ、コーサ語が話せるという理由で国家公安局のジョルダン少佐(パトリック・ライスター)から、マンデラの秘密の会話を聞

き、逐一報告しろという任務を受け、その見返りに准尉の地位を手に入れたもの。したがって、話がそうスナリと進展するはずはないのは当然。

息子のプレント（シロー・ヘンダーソン）と娘のナターシャ（ミーガン・スミス）を連れて夫と共にロベン島に赴いた妻グロリア（ダイアン・クルーガー）は、夫の異例の出世に無邪気に喜んだが……？ 看守と囚人との交流の仕方には、『グリーンマイル』派と『善き人のためのソナタ』派の2通りがある（？）が、さてジェームズ・グレゴリーはそのどちら……？

『ラストキング・オブ・スコットランド』

vs. 『マンデラの名もなき看守』

『ラストキング・オブ・スコットランド』でウガンダの独裁者アミン大統領役を演じたフォレスト・ウィテカーはアカデミー賞主演男優賞を受賞したが、あの熱演ぶりを見れば誰もがそれは当然と納得できるもの。俳優にとって実在する人物を演ずるのはイヤなもの（？）だろうが、『エデンより彼方に』（02年）で、ジュリアン・ムーア扮する白人女性との禁断の恋におちる黒人庭師役を演じたデニス・ヘイスバートが、そんな役に果敢に挑戦！

しかし、『ラストキング・オブ・スコットランド』のアミン大統領のように派手で大向こう受けする演技を必要とする役とは異なり、マンデラ役は「伝記」に沿った（？）あくまで紳士的でおとなしい役だから、その熱演が目立たないのが残念。デニス・ヘイスバートの、この映画の、この演技では、アカデミー賞主演男優賞ノミネートはちょっとムリ……？

ジョセフ・ファインズの熱演をタップリと！

他方、「名もなき看守」ジェームズを演ずるジョセフ・ファインズは、『恋におちたシェイクスピア』（98年）、『エリザベス』（98年）、『スターリングラード』（01年）（『シネマルーム1』8頁参照）、『ヴェニス商人』（04年）（『シネマルーム9』235頁参照）で私はずっと注目している名優。ロベン島に赴いた時、彼は典型的な人種差別主義者だったが、マンデラの人格と触れ合いその思想を学ぶうちに、彼の心の中には大きな変化が……？ また、黒人は共産主義者でテロリストという思い込みを持っていたが、その修正は……？ さらに、コーサ語を理解できる自分の報告によって生み

出される悲惨な現実を直視するうちに芽生えてきた疑問とは……？

マンデラ夫人ウィニー（フェイス・ンドクワナ）が面会にやってきた時にジェームズが起こした「ある事件」を契機として、ジェームズは「黒人びいき」というレッテルを貼られてしまうことになったから大変！ これによって、それまでグレゴリー夫妻を引き立ててくれていたバーナード大佐（クライブ・フォックス）も責任を問われて転属させられることに。そんな中遂にジェームズは、ロベン島での任務を放棄する決心をするに至ったが……。

ダイアン・クルーガーの熱演も！

ジェームズの妻グロリアはどこかで観た顔だと思っていると、『戦場のアリア』（05年）こそ見逃したものの、『トロイ』（04年）（『シネマルーム4』59頁参照）、『敬愛なるベートーヴェン』（05年）（『シネマルーム12』277頁参照）、『ナショナル・トレジャー2 リンカーン暗殺者の日記』（07年）（『シネマルーム18』31頁参照）で、私が注目している女優。

ジェームズの仕事は看守だから士官ではなく下士官。日本流に言えば、キャリア組ではなくノンキャリア組。したがって、子供たちを大学に進学させることなど夢のまた夢なのだが、美容師の資格を持つグロリアの社交術をもってすれば、夫の立身出世も意のまま……？ ジェームズのコーサ語の特技と、バーナード大佐の妻ジョイス（ジェニファー・スタイン）にうまく取り入るグロリアの外交術によって、ジェームズは准尉となり、さらなる立身出世も期待されたが、「あの事件」によってその野望もパー。そのうえ、転属願もジョルダン少佐によって握り潰され、いよいよジェームズは辞職あるいはクビ覚悟の無茶苦茶戦術に出ることに……。

大人としてこれはいかがなものかと思っただけで、意外にもこれが功を奏し、ジョルダン少佐が提示した妥協案によって、ジェームズは転属先のポルスモア刑務所でマンデラの手紙を検閲するだけの仕事となることに。グロリアは「あなたが勝ったのヨ」と夫をたたえ、これによってグレゴリー家には再び幸せな看守生活が訪れ、それが未長く続くかに思えたが……。

獄中27年の信念はすごい！

「獄中何十年」の物語は、アレクサンドル・デュマ原作の『岩窟王』やステイー

ヴ・マックイーン主演の『パピヨン』（73年）などたくさんある。また、「いかなる弾圧や迫害にも屈せず……」の物語は、戦後の日本共産党のリーダー宮本顕二と宮本百合子間の『十二年の手紙』や、キリシタンの弾圧として有名な「浦上四番崩れ」を描いた小説『最後の迫害』などがある。したがって、殉教者となることを恐れて終身刑とされたマンデラが、結果的に27年間もの長期にわたって獄中生活を余儀なくされたのはそれなりに大変だが、世の中によくあるお話の1つ……？

そんなマンデラの伝記を描くについて大切なことは、彼はなぜ27年間も信念を曲げることなく、キープし続けることができたのかという視点。ちなみに、ミャンマーは今サイクロンの被害によって3万人近くの死者が出ているが、ミャンマーの軍事政権と一貫して闘っている非暴力民主化運動指導者のアウン・サン・スーチー氏は今なお軟禁中だ。マンデラが27年間の獄中生活の後、初代の南アフリカ大統領となったように、彼女がミャンマーの初代大統領になる時代が到来すればいいのだが……？

それはともかく、マンデラがなぜ27年もの長きにわたって南アフリカの人々の象徴となったのか、また ANC（アフリカ民族会議）のリーダーたる地位をキープし続けてきたのか、についてのこの映画の分析や描き方は……？

自己変革がテーマだが……？

『歓喜の歌』（07年）は小林薫扮するノー天気な地方公務員が、大晦日にバツティングしたママさんコーラスの合同発表会実現のために奮闘する中で、自己変革していく姿を感動的に描いた佳作。それと同じように、『マンデラの名もなき看守』も、人種差別主義者でおのれの立身出世のみを目指していたジェームズが、マンデラの人格と思想に触れ合う中で、大きな自己変革を迫られていくのが基本ストーリー。

幼い娘が目当たりにした、白人警官たちによる身分証を持たない黒人たちに対する情け容赦のない仕打ちや交代した刑務所長による残虐非道な仕打ち等によって、少しずつジェームズの価値観が変わっていくのは理解できるが、それは自己変革の決定的な理由になるものではないはず。ジェームズが多大な犠牲を省みず、なぜここまで自己変革することができたのか？ それがこの映画最大のテーマだが、その描き方についてこの映画は……？

ちなみに、家族を大切にすアメリカ人らしく、ジェームズの自己変革には妻グロリアの役割も大きいから、少なくとも夫唱婦隨のアメリカ家庭の自己変革の姿は十分

学ぶことができるはず……？

社民党も自己変革しなくっちゃ……

この映画のプレスシートには、社民党党首の衆議院議員福島みずほ氏の「『敵』をも変えていく力を持つネルソン・マンデラ」というマンデラ讃歌のコメントがある。もともと弁護士であった彼女が政界入りしたのは、土井たか子元社会党党首に請われたため。その後「ハシゴ」が次々と取り外されていく中、彼女が社民党党首として懸命の頑張りを見せているわけだが、私に言わせれば、今や社民党は絶滅危惧種に近い存在……？

ミャンマーのスーチーや南アフリカのマンデラが熱狂的な国民の支持を集めることができるのは発展途上国特有の現象で、戦後63年間も平和をキープし、民主主義が爛熟してしまった日本では、熱狂的なリーダーは小泉純一郎のような例外を除いてなかなか登場できないもの……？ そうすると、彼女が日本のニューリーダーとなる可能性はきわめて低い……？ また、日本が二大政党制を目指して動いているのは動かしようのない事実だから、そんな流れの中で社民党が生き残るためには、かつて経験したことのないような自己変革が必要だがそれも……？ したがって、マンデラ讃歌のコメントを寄せるのもいいが、衆参ねじれ現象という日本国はじまって以来の大変な経験をしている今、それ以上に社民党党首としてやるべきことがあるのでは……？

こんな言葉をしっかり胸に！

この映画はマンデラの「伝記」だが、それだけでは面白くも何ともないので、それを「名もなき看守」ジェームズ目の通して伝えようとしたのが面白い工夫。マンデラが果たした役割は客観的に明らかだから、それは丹念に事実を学べばいいもの。この映画でそれ以上に興味深いのはジェームズがどのようにして自己変革を果たしたのかという視点。そこでキーワードになるのが、ジェームズがグロリアに対して語る「傍観者にはなりたくない。歴史の1コマになりたい」という言葉だ。

おこがましい言い方をすれば、私たち団塊の世代が学生運動に参加し、それぞれの分野、それぞれのテーマで闘ってきたのはまさにコレ！ 「共産党宣言」を読み、弁証法的唯物論の勉強をした中で、私たちがあの当時実感していたのは、自分はこんな歴史的な変革のこの1コマに存在し、活動しているということだった。それを、「多

感な青春時代特有の精神の高揚」と言ってしまうとそれまでだが、福田政権下の今の日本国で最も失われているのがこんな言葉ではないだろうか。田中角栄も細川護熙も小泉純一郎も安倍晋三も総理大臣として日本国をどのように引っ張っていかうとするのかについてそれぞれ明確なメッセージを出していたが、福田康夫はそれがサッパリ見えないから困ったもの。一国の総理たる者は少なくともジェームズと同様に、傍観者ではなく歴史との関わり合いを意識してもらいたいし、南アフリカ共和国の初代大統領となったマンデラのような明確な信念を国民にメッセージしてもらいたいものだ。そしてまた、この言葉をしっかりと胸に刻んでもらいたいのは、どんどん劣化していついとはか思えない多くの日本国民に対してだが……。

2008(平成20)年5月13日記

第3章

傑作・佳作がいっぱい！

ミャンマー軍事政権は五月十七日、民主化運動指導者アウン・サン・スーチー氏の三度目の自宅軟禁延長を決定したため、軟禁生活は通算約十三年に。しかし、一九九四年に南アフリカ共和国初の黒人大統領となったネルソン・マンデラ氏(M)は何と獄中二十七年！八八年に法制化されたのがアパルトヘイト

（人種隔離政策）。嫌な言葉だ。Mが白人政権から危険視されたのは、その撤廃を訴え武力闘争の指導をしたためだ。映画の主人公はMではなく、コーサ語を話せるため六八年にMの担当としてロベン島刑務所に赴任した名もなき看守(J)。人種差別主義者のJには、秘密の会話を

探る任務は最適。立身出世も思いのまま。マンデラは最悪のテロリスト。それが白人の常識だったが、見ると聞くとは大違い！NHK大河ドラマ『篤姫』の將軍家定じゃないが、そんなケースは意外に多い。スパイ任務遂行による過酷な現実。チョコの贈り物に起因するJ家への迫害。そんな中「自由憲章」に目覚めたJは、人種を超えた平和な世界を目指すMに惹かれていくことに。七〇〜八〇年代日本は激変したが、それは南アも同じ。いやそれ以上。人種差別撤廃を迫る国内外の圧力の前に、ついにMの釈放も間近！それを見守るJの胸の中は？そして、Jの自己変革は？感動的なセリフは、Jが愛妻に語る「傍観者にはなりたくない。歴史の

あなたも歴史の「コマ」に！



マンデラの名もなき看守

きょうからテアトル梅田で公開



©ARSAM INTERNATIONAL, CHOCHANA BANANA FILMS, X-FILME CREATIVE POOL, FONEMA, FUTURE FILM FILM AFRIKA

「コマ」になりたいたい。Mのぶれない生きざまから学んだ感動的な言葉は私たちが実感しなれば、日本が主導した第四回アフリカ開発会議は大成功で、五月三十日「横浜宣言」が発表されたが、福田首相はどこか傍観者の？そんな反省も込め、あなたは傍観者ではなく歴史の「コマ」に！

大阪日日新聞 2008(平成20)年6月21日